

第 1 回長尾小学校教育環境適正化検討委員会
会議概要

開催日時	令和 6 年(2024 年)11 月 19 日(木) 11:20~12:10
開催場所	長尾小学校 1 階 ランチルーム
出席者	【委員】17 名(欠席 11 名) 【教育委員会事務局】7 名 【傍聴】8 名
次第・議事	1 開会 2 委員確認 3 議題 (1)長尾小学校教育環境適正化検討委員会設置要綱の策定について (2)長尾小学校の教育環境について 4 閉会
会議での主な意見	・「教育環境に関すること」とは非常に幅広く聞こえるが、何を検討する場であるのか。 →体育館に代表するようなハード面も、ソフト面も、まずは広く地域のご意見を伺いたい。 ・小中一貫教育は、テーマが大きすぎて、一委員会で話し合うことではないように思う。 この地域をどうしていくのが一番適正であると考えてるのか、ある程度方向性を示してくれなければ検討が難しい。 →資料の出し方等工夫する。 ・人口減少・公共施設の老朽化に伴い、公共施設の適正化が必要であることはよく分かるが、地域に学校があることは子どもにも地域にも非常に大切なことである。「こどもまんなか」を今一度意識して、大人の都合でなく子どもを中心として、丁寧にかつ迅速に教育環境の整備を進めていただきたい。 →改めて「こどもまんなか」を意識して取り組んでいく。
会議録(概要)	
委員	1 開会 第 1 回長尾小学校教育環境適正化検討委員会ということで、これまで体育館建て替え推進委員会ということでやらせていただいたが、なかなか現実的に難しいというところで、方針を変換して、今後は教育環境適正化に関するものを検討していく委員会ということで看板をかけ変えさせていただく。まず、今回第 1 回という形で、皆さんに声かけさせていただいた。ただ、話す内容として、どなたに対応していただくのが良いのか、そういったところも含めて検討していきたいと思うので、今日は一旦、当委員会の趣旨・議題というところを少し見て聞いていただきながら、第 2 回、第 3 回と進んでいく中で、この委員会は出た方がいいのかご自身でご判断いただければと思うのでよろしくお願いします。 2 委員確認 ～資料 1～

事務局	委員名簿について、記載ミス等あれば、会議後にお声掛けいただくよう、願います。 今後、検討委員会の議事録を宝塚市のホームページで公開していくことになる。公開に際し、事前にご出席いただいた委員の皆様に議事録の確認をお願いすることになる。
事務局	3 議題 議題(1)長尾小学校教育環境適正化検討委員会設置要綱(案) この検討委員会で何を検討し、最終的にどういう形で、役割を果たしていくのか、そのあたりをこの設置要綱に記載している。 ～資料2～ まだ第1回目ということで、当面は事務局の方で司会進行をしていきたいと考える。 今のところ、この会議は安全対策委員会の後に開催させていただいており、序盤はその形で進めていきたいと考えている。 ～資料3～ 宝塚市の教育委員会の傍聴人規則になっており、こちらの要綱に記載している以外の部分については、この傍聴人規則に基づいて対応させていただく。
委員	2の(1)教育環境に関すること。 非常に言葉としては短いが中身が非常に広い。言葉だけ聞いたら何から何まで入ってしまう。どの辺までをこの会議で含めるのか。
事務局	基本的には、子どもたちの教育環境に関すること、例えば、児童数の規模、子どもたちの学習環境。幅広いが、子どもたちの教育環境をより良くしていく観点で該当する教育に関することである。
委員	例えば先生の数が少ないとか、クラスをもっと増やせとか、ハード面にソフト面も含めて審議するのか、それかやっぱり建物面を中心に進めていくのか。
事務局	教育環境に資するところであれば関係してくる。先生の配置の問題は、結局は県の配置基準によるのだが、そういうものもご意見としていただければと思う。
委員	これからこの会の中で意見集約していったって、検討できるできないを判断していくという認識でよろしいか。
事務局	この検討委員会で何かを決めていくのではなくて、地域・保護者の方が考えられている課題やご意見を集約していければと考えている。
委員	一旦範囲は定めずに、ソフト面ハード面を含めて、先ほどの教員数の問題だったり、いわゆる教室が狭いとか、教室数が足りないとかそういった話まで含めて、子どもたちの教育に繋がることであれば、議論をしていくという認識でよろしいか。

事務局	そのとおりである。
委員	設置要綱案のⅠ、「設置」とあるが、これは目的ではないのか。
事務局	「目的・設置」とする。
委員	要綱に「委員」とあるが、次のページは「構成員」の一覧とある。同じ言葉を使ってほしい。
事務局	そのように修正する。
委員	４ 会議（３）に「代理者が出席することも可能」とあるが、これは同じ所属の中から誰か代理を選ぶ、という意味でよろしいか。
事務局	そのとおりである。所属している団体の中からでお願いする。 ご指摘いただいた修正内容を反映させて確定したものを、また次回の検討委員会でご報告させていただく。 議題（２）小学校の教育環境について ～資料４～ Ⅰ 背景 前回の会議のおさらいにはなるがご説明させていただく。 ①子どもたちを取り巻く社会状況の変化や、子どもたちの心身の発達状況の早期化、不登校の低年齢化などへの対応 現在の小学校６年、中学校３年、高校３年、大学４年の６３３４制が確立されたのが、昭和２２年頃である。その当時の子どもと、今の子どもたちの発達状況を比べると、２年ほど早くなっていると言われている。 現在１０歳程度の児童が、当時の１２～１３歳の体格や意識を持つとされている。ちょっと前までは中１ギャップということで、中学１年生の不登校が増えていたが、こういう心身の成長の早さからか、最近では小学校４、５年生で不登校が増加する傾向がある。 こういった小学校と中学校が分かれていることによって生じていた課題に効果があるとして、平成２８年頃に義務教育学校、小学校中学校９年間の一貫した教育課程を編成する義務教育学校というのが、子どもたちの成長に対応する手段として有効とされている。 周辺では西宮市や京都市で小中一貫校の導入が進んでおり、宝塚市もこういった議論を今後進めていきたいというところをお話させていただいた。 ②人口減少時代を迎える中での人口急増期に建てた学校を含む公共施設の最適化

長尾小学校は、平成 7～8 年に一時的に児童数が減少したが、長尾小学校区は生産緑地等、開発の種地が多くあったことから、その後しばらく人口が増加した時期がある。けれども将来的には全市的に、長尾小学校区も一部開発されているところがあっても、例外なく減少の見込みである。

長尾小学校区の種地や宝塚第一小学校校区のビルの開発で、一部若年層が増加しているが、全市的に人口は減少していき、現在の 22 万 5000 人ぐらいが、2040 年には 17 万人程度まで減少すると見込んでいる。

全国的に見ても、人口構造の変化があり、生産年齢人口（15 歳から 64 歳）が減少していき、高齢者人口（65 歳以上）との割合が 1 対 1 に近づく見込みである。そうなったときには、この少ない生産年齢人口で、高齢者人口を支えていく構造になる。

また、人口急増期に建てた学校を含めた公共施設が老朽化し、維持費も今後増加する見込みで、こういう公共施設をどう維持していくかということが課題である。

今後の方向性として、子ども人口の減少に伴って学校の施設の規模を縮小しつつ、教育課程も 9 年間見通した形で校区の再編等をしていく必要がある。

公共施設の老朽化や人口減少を踏まえ、何を優先的に取り組むかを検討する時期に差しかかっている。

次に、一般的な大規模校の課題を共有させていただく。

2 大規模校における課題

① 教室や施設の制限

教育環境が過密化すると、教室数の問題も出てきて、配慮を要する子のクールダウンする部屋の確保が課題となる。体育館・運動場の 1 人当たりの面積も減り、体育館の実技や 1 人当たりの運動量にも影響が出てくる。

② 個別支援の難しさ

小学校でも今不登校が増加傾向になっている。また全体的に、特別支援学級が増加しており、多様な児童が増えている環境の中で、そういう特別な支援を必要とする児童への対応が難しくなる場合がある。

③ 児童の経験・活躍の場や機会の減少

少人数であれば係の割り当てや体験の機会が多いが、1 クラス当たりの学級児童数が多くなると、そういう機会が少なくなる。

④ 異学年交流の機会の減少

横の繋がり（学年内）での活動が多くなるということで、縦の関わり（学年間を超えた関わり）がなかなか難しいという指摘がされている。

こういった大規模校における課題について、どう検討していくか、より良い教育環境にしていくかというところを、次回以降で検討していきたいと考えている。

	3 これまでの体育館の整備に対する要望と対応状況 これまで体育館の建て替えのときに要望をいただいていた項目を挙げている。 ①カーテンの交換 別に出てきた話だが、一旦ここに列挙させていただいている。 ②空調機器の設置 前回も話したと思うが、令和 7 年度中に工事を予定している。 ③福祉トイレ機器の設置 ④北面以外の出入口の設置 ⑤体育館に通じる階段横のスロープの設置や館内トイレの段差等のバリアフリー化 要望としていただいている③～⑤について検討していく形になる。 委員 要綱の議論のときのどこまでを議論するのかについての話に関わると思うが、今の教育環境の説明を聞くと、子どもたちにとってよりよい教育を行っていくためにはどうしたらいいのかということで、公共施設の適正化の問題に合わせて、子どもたちが偏在しているから、通学路の変更も含めて、学校の適正化とか、義務教育学校も含めた検討を話し合っていく必要があるのではないかという教育委員会からの提案というふうに受けとめた。 なので、準備会のときにも意見を言ったが、やはりその義務教育学校とはどんなものか、そういう基礎知識を、一度説明していただけると議論がしやすいイメージが湧きやすいのではと思う。 事務局 また検討委員会の場で、小中一貫教育とはどういうものかということも資料を用意して説明をさせていただこうと思う。 委員 この適正化検討委員会は市内 23 小学校全部に設置してはいない。なぜここにこういうのを設置しなくてはいけないのかというと、多分体育館建て替え推進委員会があったからこれに繋がったということであるから、おそらく流れとしてはそっちの方向だと思う。 もともとコミュニティスクール(以下、コミスク)というのが各学校にあり、その中で、今のような課題は審議していく。だからそれ以外に、なぜこの委員会があるかということをも、もうちょっと突き詰めていただいたら、的が絞れるのではないかなと思う。 ここで不登校のことや体育館のことや先生が足りないとか、道路のこととか話していたら、まとまらなくなってしまうのではと思う。 この会議でできたのは、設備の方の要望をあげましょうということに重きがあるのではないかなと私は思う。 今おっしゃっていただいた小中一貫教育はなかなか難しい話であるから、それしようと思ったら 23 校全部にこういう会議を設置しなくてはならないと思う。 事務局 そもそもの始まりが体育館の建て替えということなので、その議論をしつつやっていく。コミスクの方で小中一貫を導入する・しないという話は難しい。長尾小学校は小
--	---

委員	学校と中学校の校区が不整合という問題もあるので、校区の再編とかになると、コミスクでなく、地域の方々のご意見とかも頂戴しながら、検討を進めていくことになってくるかと思う。この検討委員会では、コミスクで話せる内容と切り分けて議論を進めていきたい。 こういった議題について、「皆さんのご意見聞きながらやっていきましょう」という話であるが、どちらかというと、行政側からこうしたいというのがある中でそれを議論していく場の方がいいのかなと思っている。 小中一貫、校区再編、不要な学校が出てくる…ではその学校の校舎をどうするの？など、どんどん派生していくような話である。 小中一貫するのかもしれないのかというところは、我々からの意見で決まるものではないと思う。 正直今のところでいくと、「いろんな意見を出しながら議論していきましょう」というが、着地点が見えない。小中一貫にすることのメリットも、保護者からしても、どうなんだろうなというところ。 ただ、地区の話であれば、例えば中山寺の子たちは売布に行った方がいいんじゃないかとか、平井山荘の子は長尾台に行った方がいいんじゃないかとか、山本でも南の子は長尾南でもいいんじゃないかとか、そういった校区をまたぐような話は出る。近い方へ行った方がいい人も、そうでもない人もいるかもしれない。なかなか保護者間で一致してこうしたいと決めるのは難しい。 逆に山手台中・長尾中・南ひばりが丘中、小学校は、長尾南小・長尾台小・売布小、この辺の施設を、どういうふうにまとめ、どういうふうに小中一貫すれば、クラス数、児童生徒数、教員の配置、そういったところが適正となり、施設の的にもうまく効率的に予算を分散した上で、手を入れることは手を入れられるかっていうところを、行政側から案として出していただいた上で、それについて議論していくのがいいのかなと個人的に思ったところである。
事務局	今後、小中一貫と校区整合の基本方針を作ってから、地域ごとの計画を作っていく形になる。その地域ごとの計画の中で、ご意見等いただいて、教育上の課題と、公共施設の課題の解決に向けた取組を進めていくことになる。たたきというか、議論しやすいよう資料の出し方を検討していく。
委員	小中一貫ってというのは、所掌事務の中の何番に入るのか。
事務局	(1)である。小中一貫自体は、「教育環境に関すること」となる。 ただし、小中一貫となれば、まず小学校と中学校が1つの小学校から1つの中学校にいくというよう、まずは校区の整合をしていかないといけない。((2)の通学区域に関すること という面でもある)

委員	それ(小中一貫教育)を長尾小学校教育環境適正化検討委員会で話をする事なのかどうか、ちょっと疑問に思う。 ここはあくまで長尾小学校の教育の環境を良くするために目的だと思う。小中一貫について、年3回1時間ぐらいのこの会議では何も決まらないと思う。決まるかもしれないが、非常に時間が少なすぎると思うし、それをこの場でやるのはちょっと違うのではないかなと思う。
事務局	そもそもこの会は当初は体育館の建て替えということで、市の方と協議を進めながら要望書もいただきながら、長年こう進めてきたわけだが、なかなかその建て替えの方向性、目処すらもたない中で、それは体育館の建築年数とかがいろいろ関係してくるので、全市的に他の学校の体育館の建て替えの時期も含めて考えるとなかなか早期にというのは難しく、少し平行線が続いていたところに、この体育館の建て替えというものを決して排除することなく継続しながらも、もう少し違う方向性からも検討してはどうかということでこの会を提案させていただいた。 どういう側面かという、やっぱり子どもの数が多いから、1人当たりの面積が、なかなか十分に確保ができていない。全校生が体育館に集まって、行事ができない。卒業式入学式も非常に学校は苦勞しながら運営している。 これは子どもの数に起因するところが多いので、そこを適正化することも、体育館の建て替えという側面とは違う方向から、並行して同時に検討していきたいということでこの会を設置させていただいた。 今、小中一貫校というものが目的のようになっているが、市としてもそれが最終的な目的ということではなく、9年間を見通して子どもを育てていきたいという、長尾地域だけではなくて全市的にそういう方向に向けていきたいなという思いがある。 それともう1つは、学校のあり方の転換期を今迎えてきているということである。人口が増えていく過程の中で学校をいっぱい増やしてきたというのが宝塚市で、昭和50年代ぐらいから多くの学校を建設したが、今、子どもの数が非常に減ってきている。そんな実態がある。 宝塚市は昭和57年、1万9900人ぐらいの子どもがピークだった。そのあと、少子化の影響を受けて、今年度では1万2000人ほどで、60%ぐらいになっている。 小学校が6年間であるから、その傾向というのは5、6年後に中学校に出る。中学では当時は9,000人ほどいた。子どもたちが今5,000人ほどであるから、これも大体60%ぐらいまで減ってきているという実態がある。 この長尾小学校は非常に子どもが多いところだが、その他の地域ではやはり子どもが少なくなってきた、学校運営が非常に厳しくなっており、全市的に学校区の在り方も含めて検討しなければいけない。 そういうときに、1つの大きな地域である、この長尾地域は起点となるような地域があるので、この中から議論を始めていって、必要に応じて、隣の地域にもこの議論を展開していかないといけないという流れになってくるのかなと思う。校区変更ありきでやるわけではないが、もしこの学校の規模が大きくて、少し周辺の学校に子どもの数を分散

委員	させることが必要だということであれば、近隣の学校にも声かけをしていって議論に入ってもらうことも必要ではないかなと考えている。 なかなか会議をどう運営していくのかっていうのが、見えない中であるが、 今、市全体の考え方を聞かせていただいて、国全体の課題になっていることだというふうに思う。公共施設をどう維持していくのか、そして学校をどう維持していくのかという非常に大きな課題だとは思いますが、やはり地域の人たちにとっても、子どもたちにとっても、地域の中に学校があるというのは非常に大事だと思う。 やはりどうしても統廃合が先に出てくると思うが、それが先にありきではなくて、やはり子どもたちの教育環境をどうしていくのかというのが十分議論されないと、なかなかそこに行き着かないのではないかなと思うので、財政的な問題もちろんあるが、そういうことが丁寧に議論されるべきだし、資料としてもそういうことを丁寧に出していっていただきたい。
事務局	まずは子どもの学ぶ場がどういう形であるのかが非常に重要であり、そこを原点にスタートさせていって、周りに波及していくべきものだと考える。 まずはやはり子どもの教育環境という視点に重きをおいて議論していくように、資料作成も含めて進めていく。
委員	先ほど言われたように、着地点が見えないっていうのは私もそうである。 市の教育環境審議会の方では、もうすでに前々年度に答申が出ている。小中一貫校を作りましょうと。それありきで話をしているような気はしている。 中学校の部活動も、もう数年後にはなくなるということで、一体地域の子もたちどこに行くんだろうっていうのをすごく危惧している。学校の先生たちの働き方改革もありということで、いろんな面で「こどもまんなか」と常々言っておられる割には子どもが阻害されているような感じで何もかもいろんなことがなくなっていく…。 宝塚市の財政難ということで、次年度に 10 億円の削減、次々と 7 億 7 億と削減していくということであるが、子どもたちの姿が見えてないような気がする。子どもたちのための教育環境と言いながら、大人の都合で何か動いているような気がするのは私だけかもしれないが。 地域の中で子どもを育てていくっていうことの難しさを今すごく感じている。保護者の皆さんの協力がなかなかない中で、私たち社会教育団体として、地域の中で子育てに何十年も関わってきたが、成果が見られないというたった一言だけで、ぷちっと切られてしまうというような、今ものすごく肩身の狭い思いをしている。なくなってしまうのかと涙目になって、子どもたちが生き生きとした姿をもう見られないのかと言ってくれるぐらい、みんな一生懸命やってきた。 なので、せめて、子どもたちが生き生きと楽しく学校に通えるような環境を作って欲しいっていうのが私の願いである。 今、保育所で、長尾小学校に通う子どもたちの中で、どこの小学校に行くのって言いながら、みんな別れていくのを知りながらも、小学 1 年生になるのを楽しみにしている。

事務局	そんな姿を見ると、やはり子ども中心に考えて欲しいなとすごく思う。大人の議論だけでなく、子どもを中心とした教育環境の整備っていうのが一番重要なんだっていうことを、必ず、一番念頭に置いていただいて、いい方向になるように、また迅速に、環境が整えられるように願う。 体育館が建て替えて動いている時はみんな一貫して同じ方向を向いていた。しかし、今ここではすごく分散させられているような気がして、私はどちらの方向を向いたらいいんだろうと思う。 であるから、地域の人間も現役の保護者の皆さんも子どもたちも、みんなが納得できるような、「よかったねこの学校に来て」「楽しかったね」って過ごせる９年間で、みんなが楽しく過ごせるような「こういう学校ができて不登校が減ってよかったよね」とか、「ここの小学校１年生だけど中学３年生のお兄ちゃんたちと関わって楽しかったよね」って言えるような、そういう学校を作っていただきたいと思うのでよろしくお願いします。 ありがとうございます。子どもを中心とした形で、改めてまずはそこを認識して今後の検討を進めていく。 他、何かご意見等ないようであれば、これで本日の検討委員会の方を終了させていただきます。
-----	--